

令和8年度 言語能力をはぐくむモデル校 取り組み概要

共にことばの力を育み主体的に学ぶ子ども

言語能力の充実と図書館活用



学校図書館を活用し、国語科を中心とした言語活動を充実させるとともに、味見読書や絵の本広場等、市民図書館との連携も図っていく。



ことばの宝箱・詩の朗読



朝の時間に詩の朗読をしたり、国語科の学習や帰りの会等で教科書巻末の「ことばのたからばこ」を用いたスピーチを行ったり、声に出す活動を行う。



教材のしかけ (国語科のしかけ)



意図的に教材を不安定にすることで、子どもの「考えたい・伝えたい」という意欲を引き出していく。

- ①順序をかえる ②選択肢をつくる ③置き換える
- ④隠す ⑤加える ⑥限定する ⑦分類する ⑧図解する
- ⑨配置する ⑩仮定する

学校生活に結び付けた学習を取り入れることで、相手意識・目的意識・必要感をもつことができるようにする。

ポジティブ行動支援

安心できる学習環境を整えられるよう、児童の意欲が高まるような声掛けを意識する。



7月：第1回指導案検討会

校内で「教材のしかけ」を用いた授業づくりを具体的に検討する。

9月：4,5年研究授業

大阪府教育研修センターの方のご講評を受け、「研究テーマ」「言語能力」「しかけ」を結び付けていく。

10月：2年研究授業
10月29日：岩井先生
公開授業指導案検討

各学年で実践を重ねる。
岩井先生をお招きして、公開授業
に向けて指導案を検討していく。

11月16日or11月：
1,3年研究授業
11月30日：全学年公開授業

岩井先生にご講評をいただき、
1年間の成果を全学年の公開
授業で発表する。